

VOICE

市民のために生かしたい、 社会調査士のスキル。

社会調査士のスキルを最初に活用できたのは、
入庁直後に配属された子ども福祉課でのニーズ調査。
アンケートをとり、解析を行い、

その結果を盛り込んだ計画を作成した。

頭に浮かんだのは、学生時代に取り組んだ卒論。

当時は、学園の強みを生かし、短大生を対象に調査したが、
調査プロセス自体は、実際の仕事とほぼ変わらない。

保険年金課に移った今はさらに、窓口で説明する中で、

「相手の目線に立つ」コミュニケーションの基本が生きている。
あらゆる場所で役に立つ学びを実感する日々だ。

☆☆☆
Sayuri
Watanabe

越前市役所 職員
渡邊 さゆり
活躍する卒業生 vol.5
仁愛大学コミュニケーション学科
現代社会系2009年度卒
(羽水高校出身)

New!
さらに社会が求める学びへ
2016年度から
学科刷新!



社会が求める、明日のジブンへ

vol.2 目指すは社会調査士



データ解析することで、様々な角度から社会を見つめられる、面白さ。

コミュニケーション学科3年
林 由貴 (勝山高校出身)



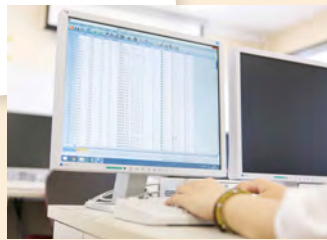
現代社会系

大学生の食生活を調査



今、「社会調査演習」という講義の中で、“大学生の食生活と学力をはじめとした生活態度の関連性”をテーマに量的調査を行っています。このテーマを選んだ理由は2つ。過去のこの授業で、大学生の食生活に注目した調査が行われていなかったこと。そして、下宿暮らしをしている私自身が、規則正しい食生活をしていないことです。自分の体験は、社会のどんな現象や傾向とむすびについているのかを知りたいと考えました。調査の手順としては、テーマを決め、調査票(アンケート)を作成した後、対象(学内を予定)に配布、回収してデータを統計的に処理し、解析します。現在は、調査票を準備している段階です。

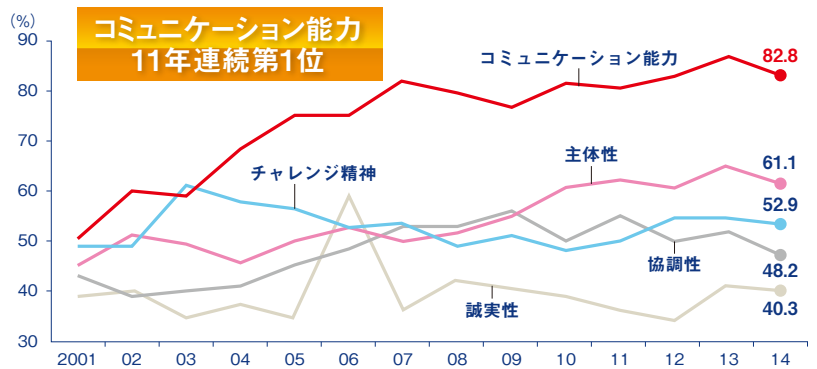
社会調査の興味深い点は、データを数値におきかえたり、カテゴリー化したり、という調査分析の手法を用いることによって、ふだんあたりまえのこととして気にとめていなかったことを別の視点から眺めることができ、そこに浮かびあがってくる社会の様々な側面を、それまでとは違った観点から捉えることができるようになることです。統計的知識の活用法や、データ解析ソフトの使用法を修得するのは大変でしたが、身につけてしまえば、これほど面白い世界はありません。将来は、ぜひ、調査や統計のスキルを生かした仕事に就きたいです。



データで見る、コミュニケーション力

企業が重視する、コミュニケーション力。

右のグラフは、日本経済団体連合会の会員企業のうち1,310社を対象に行った調査の結果(回答660社)を表したものです。企業が大学の新卒者を採用する際に、どんな能力を重視しているかがわかります。学生に求めている能力の第1位は、なんと11年連続で「コミュニケーション力」です。



※日本経済団体連合会「新卒採用(2014年4月入社対象)に関するアンケート調査結果の概要」

コミュニケーション学科で取得可能な
免許&資格

- 中学校教諭一種免許状(英語)
- 高等学校教諭一種免許状(英語)
- ITパスポート
- 社会調査士
- 社会福祉主事
- TOEIC